



第20回 ウォーキングフェスタ コースMap



令和6年11月23日
青梅市スポーツ推進委員協議会



ちょっと休憩

本日のウォーキングコースの途中にある4つのお寺に祀られている七福神を線で結んでみよう！

間修院・
清宝院・
延命寺・

・恵比寿尊
・大黒天
・毘沙門天
・弁財天
・福祿寿
・寿老人



黒沢二丁目

黒沢二

6

青梅東部病院

聖明園寿荘

7



ショートカット
-1.0 Km

※途中にコース誘導スタッフはいません。
※急な登り坂と下り坂なので転倒に注意してください。

フルコース
約10.0 Km
約2時間30分

ショートカット
-2.0 Km

※途中にコース誘導スタッフはいません。
※交通ルールを守って歩道・横断歩道を歩を歩いてください。

青梅坂トンネル

裏宿町

多摩高

一中

文

金剛寺

記

天

10

大柳町

万年橋

11

煙中下西

煙中一

12

13

14

15

16

17

18

19

20

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17



清宝院 恵比寿尊

七福神の中で唯一の日本の神様です。
いざなみ、いざなぎの二神の第三子と言われ満三歳になっても歩かなかった為に、船に乗せられ捨てられてしまったが、漂着した浜の人々によって手厚く祀り始めたのが信仰のはじまりと伝えられています。
左手に鯛を抱え、右手に釣り竿を持った親しみ深いお姿であり、漁業の神であり、特に商売繁盛の神さまとしての信仰が知られています。
清宝院の恵比寿尊は、江戸時代より深川木場関係者に信仰されていたもので、明治初年奉納されたものです。



延命寺 大黒天

古くより庫裡の守護神として祀られています。米俵に乗り、右手に小槌、左手に福袋の一般的なスタイルの大黒天は古代インドの「マハー・カーラ」という戦闘と財福の神で、マハーは「大」、カーラは「黒」を意味しています。
日本に伝来するおりに大国主命(おおくにぬしのみこと)と大黒天の「大国・大黒」の音韻が似ているため混同され、憤怒(ふんぬ)の大黒様は福相のお姿になった。延命寺には、別に「招福大黒」と呼ばれる三面大黒の掛け軸が秘仏として伝わっています。元旦～1月15日まで開帳。三面六臂、憤怒の形相の摩訶迦羅天(大黒天)です。



宗建寺 毘沙門天

元々は東西南北を守護する四天王の一人で、北方の守護神とされています。別名「多聞天」とも呼ばれ、これは正法を多く聞きその知識を多くの人々に分け与えた、と伝わっています。そのため「七難即滅・七福即生を施与する神」と崇められたため、後世に七福神会議の一尊となりました。
その容姿は他の七福神とは異なり、鎧兜を身に付け、右手には宝棒を持ち、左手には宝塔を掲げた、「武装憤怒」と呼ばれる形をなしています。
宗建寺ではこの毘沙門天を御本尊としてお祀りしていますが、御本尊とは別に弘法大師・空海が製作したと伝わる毘沙門天が秘仏として、1月1日～同月31日まで御開帳いたしています。



玉泉寺 弁財天

元は古代インドの河の神様です。水の湧き出る美しい音色からやがて音楽の神様を想像され、「家内和合して音楽を奏でるが如し」と云われるように、芸事の神様、家内和合の神様として祀られています。
またそのお名前から「学問成就」及び「福德財宝」の神様としても知られ、白蛇を弁天様の使いとしております。
七福神の中では唯一女性の神様で、琵琶をお持ちになっている姿が特徴です。



明白院 福祿寿

その昔、時の和尚さんがある寒い冬の夜中に庫裡(お寺の台所)の押入れでネズミの走り回る音の目が覚めました。そっと押入れの戸を開けてみるとネズミが三匹、米びつに穴をあけお米を貪るように食べていました。
そのような事が三日三晩続き、翌晩は何の音もしなくなったので押入れを調べると、天井に狸の屍があり、その周りには沢山のお米と小さな黒い塊が三つありました。よくみると福祿寿の御像でした。
そこで和尚さんは思いました。「あの三匹のネズミは福祿寿尊の化身で病気の狸の世話をしたのに違いない…」と考え、鄭重に福祿寿尊を祀り、米俵を担いだ狸の石像を庭に建立し供養すると共に「生福の狸」と名付け参詣者に福が授かるように祈願したということです。(当院 縁起より)



間修院 寿老人

寿老人は老子の化身とも言われ、長命、富貴、与宝、種々の病の平癒の神でもあり、人々の安全と健康を守る神である。その姿は、白髪長寿の老子の姿をしている。
寿老人像は今の寿老堂に移る前は本尊脇に古くより奉安され代々の住職が黒沢村の住民の長寿を祈願したという。山門を入った左手に寿老堂がある。お堂は当院近隣の住人故長谷見隆吉氏の寄進である。



地藏院 布袋尊

布袋は、七福神の中で唯一実在した禅僧です。
中国の唐末期(9～10世紀)に実在した禅僧名を契此(かいし)がモデルになっているといわれています。布袋腹という言葉のとおり、まるまるとしたお腹をして、袋の中には、日常生活に必要なものを入れていたとされています。
中国において布袋尊を弥勒菩薩の化身として一般に信仰されるようになりなした。